

竹原市災害復旧状況 6月末

項目	災害復旧件数	設計中	契約済工事中	復旧完了件数
公共施設災害	164	81	36	47
農地・農業施設災害	116	88	22	6
計	280	169	58	53

※復旧完了は、応急仮工事も含みます。



▶応急の仮土のう
点検・パトロール状況

ます。

被災後一年 私たちは忘れない
今年の豪雨は、7月5日から8日までの4日間で458mmの大雨となりました。これは、竹原市の平年降水量の4割が、4日間で降る猛烈な雨となり、その被害も過去最大のものとなりました。

被災以降、その復旧に向けて日々取り組んできましたが、現在も、依然として仮復旧や復旧に未着手の箇所も多く、少しの雨でも被災しやすい状況となっています。これからも、一日も早く、安全で安心な市民生活が取戻せるよう全力で取り組んでまいります。

今月で西日本豪雨災害から1年が経過します。昨年の豪雨は、7月5日から8日までの4日間で458mmの大雨となりました。これは、竹原市の平年降水量の4割が、4日間で降る猛烈な雨となり、その被害も過去最大のものとなりました。

6月から、被災した賀茂川の護岸復旧に併せて、広島県により、河床の掘削と堆積した土砂の搬出が行われています。

この緊急対応によって、賀茂川の治水安全度が向上し、安心して暮らせる市民生活につながります。



▲賀茂川（6月中旬 親耕橋上流）

吉名町の農業用ため池「半三池」では、堤防の一部が崩落するなど、堤防損壊の危険が高まっていました。この度、擁壁や法面保護の施工など、復旧工事を完了したことにより、付近の皆様には、安心して生活いただけるようになりました。

吉名町 半三池 堤体復旧



▼復旧前



▼復旧後



▼復旧前



▼復旧後

たけはら 災害復旧かわら版

発行：竹原市建設部

第4号

賀茂川復旧進む

しゅんせつ

仁賀町 林道三津仁賀線一部復旧

竹原市仁賀町と東広島市安芸津町を結ぶ

「ふるさと林道三津仁賀線」は、早期の開通に向けて整備が進められていましたが、昨年の豪雨で供用開始した一部区間で法面が崩落するなど被害を受け、通行止めになっていました。この度、一部区間の復旧工事が完了し、開通しました。

平成30年7月豪雨により土砂災害が発生し、甚大な被害を受けた箇所において、早期の復旧に向け、国、県、市が連携を図り、緊急的な砂防・治山施設の整備計画について、平成31年1月に公表されたところです。

この公表された緊急事業に続き、再度災害防止のため、令和元年度に新たに採択された「激特事業等」を加え、「平成30年7月豪雨災害 砂防・治山施設整備計画（緊急事業・激特事業等）」として5月17日に公表されました。

新たに19箇所を追加

広島県内では、激特事業等として新たに、338箇所を加え、整備対象箇所は、545箇所となり、そのうち、竹原市内でこれまでの26箇所に加え、新たに19箇所で対策事業が施行される予定です。

【砂防・治山施設整備計画（緊急事業・激特事業等）の内容】

(単位：箇所)

種別		砂防・急傾斜				治山				合計
対応主		国交省	広島県	市町	小計	林野庁	広島県	市町	小計	
県全体	緊急	20	111	68	199	39	59	4	102	301
	激特	6	66		72		172		172	244
市内分	緊急		8	9	17	1	8		9	26
	激特		6		6		13		13	19

*激特事業が、今回計画で盛り込まれた箇所。なお、整備箇所の増減が分かるよう、緊急事業をフォローした激特事業は、緊急事業として箇所数を整理。

【今回追加された事業】

砂防激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）

土石流等により激甚な災害が発生した一連地区において、一定計画に基づき、一定期間内（概ね3年）に緊急的に実施することが必要な砂防事業、地すべり事業及び治山事業。

【前回までの事業】

災害関連緊急砂防事業（緊急事業）

災害発生の風水害、震災によって土砂が渓流に堆積しており、放置すれば次の出水により流下し、下流へ土砂災害を及ぼす恐れがある場合で、緊急的に施工が必要となる事業。

砂防・治山施設整備計画位置図

